第 29 回通常総会

2023 年 3 月 15 日（水）

一般社団法人　言語処理学会

The Association for Natural Language Processing

第 29 回通常総会次第

日時　2023 年 3 月 15 日（水）　13 時 10 分～14 時 00 分

会場　沖縄コンベンションセンター　A2 会議室

総会次第

第 1 号報告　2022 年度事業報告

第 1 号議案　2022 年度決算報告

第 2 号報告　2022 年度監査報告

第 3 号報告　2023 年度事業計画

第 4 号報告　2023 年度予算案

第 5 号報告　2023 年度代議員構成

以上

2022 年度事業報告

1. 概要

言語処理学会の主要な活動として，論文誌「自然言語処理」の発行および年次大会の開催を計画通りに進めました．「自然言語処理」に関しては，第 29 巻の 1 号から 4 号を発行しました．第 28 回年次大会は，2022 年 3 月 14 日（月）から 16 日（金）までオンラインで開催しました．また，学会活動を支える IT インフラの整理・拡充に着手するとともに， 学会 30 周年の記念事業についても準備を始めました．

2. 会員現況

正会員	1090 名（+48）［うちシニア会員 18 名（−2)］
学生会員	511 名（+46）
賛助会員	27 組織（−7)，28 口（−7）

(2022 年 12 月 31 日現在，増減は 2021 年 12 月 31 日との比較)

なお，定款第 11 条 1 項 2 号にもとづき，会費を 1 年以上滞納した会員 156 名(正会員 51 名（うちシニア会員 0 名），学生会員 105 名)については，その会員資格を喪失したものとして扱います．

3. 会誌の発行

第 29 巻第 1 号（2022 年 3 月 15 日発行，通巻 131 号）
　巻頭言，一般論文 8 編，学会記事 9 編，編集後記，会告
第 29 巻第 2 号（2022 年 6 月 15 日発行，通巻 132 号）
　巻頭言，一般論文 15 編，学会記事 9 編，賛助会員記事 1 編，編集後記，会告
第 29 巻第 3 号（2022 年 9 月 15 日発行，通巻 133 号）
　巻頭言，一般論文 7 編，解説論文 1 編，学会記事 9 編，編集後記，会告
第 29 巻第 4 号（2022 年 12 月 15 日発行，通巻 134 号）
　巻頭言，一般論文 6 編，技術資料 2 編，学会記事 9 編，編集後記，会告

4. 第 28 回年次大会の開催

◇開催日: 2022 年 3 月 14 日（月）～3 月 18 日（金）
◇会場: アクトシティ浜松コングレスセンター（静岡県浜松市中区）

第 28 回年次大会は，オンラインによる開催形態を中心に，現地会場とオンラインを組み合わせたハイブリッド開催形態も視野に入れ準備を進めました．準備に際しては，開催形態によらず，活発な発表と議論，参加者・スポンサー団体の交流を促進するための施策を企画しました．結果として，大会運営関係者と一部のチュートリアル・招待講演登壇者以外のすべての参加者はオンラインで参加する形態での開催となりましたが，非常に多くの発表・参加者が集まり，盛況な大会を開催することができました．

◇プログラム
■本会議（3 月 15 日～17 日）

一般セッション（口頭発表，ポスター），テーマセッション合わせて 386 件の投稿があり，そのすべてがオンラインで発表されました．発表数の内訳は次の通りです．

・口頭発表(一般) 221 件
・口頭発表(テーマセッション) 33 件
・ポスター発表 132 件

発表件数は過去最多の NLP2019 の 398 件に近い発表件数となりました. 口頭発表 254 件 (テーマセッション発表 33 件を含む) は過去最多の件数です. 今大会では口頭発表の希望が多く, 可能な限り多くの口頭発表を受け入れるため, 口頭発表のセッションを当初予定の 6 並列から 7 並列に増やして実施しました.

■テーマセッション(3 月 15 日・17 日)

公募により設定された以下の 4 件のテーマセッションを開催しました.

・論文情報処理と論文執筆支援 (14 件+総合討論)
・文章の評価と品質推定 (13 件+総合討論)
・言語処理テクノロジーと翻訳:翻訳の要請から技術へ, 技術から翻訳応用へ (3 件+総合討論)
・談話研究と対話システム研究, 人工知能研究の連携に向けて (3 件+総合討論)

■招待講演(3 月 15 日・16 日)

下記の2名の先生をお招きし, 招待講演を実施しました.

・田中 久美子 先生(東京大学)
自然言語を複雑系として捉える試み
・馬塚 れい子 先生(理化学研究所/Duke University)
自然言語処理研究が乳幼児の言語発達研究から学べることは何か

■招待論文講演 (3 月17日)

会誌「自然言語処理」に発表された論文の中から選出された以下の 4 件の論文についての発表が行われました.

・Effectiveness of Syntactic Dependency Information for Higher-Order Syntactic Attention Network
Hidetaka Kamigaito, Katsuhiko Hayashi, Tsutomu Hirao, Masaaki Nagata and Manabu Okumura
Vol.28, No.2, pp. 321-349
・テキストベクトルの重みづけを用いたタスクに対する単語分割の最適化
平岡達也, 高瀬翔, 内海慶, 欅惇志, 岡崎直観
Vol.28, No.2, pp. 479-507
・訓練事例の影響の軽量な推定
小林颯介, 横井祥, 鈴木潤, 乾健太郎
Vol.28, No.2, pp. 573-597
・数値気象予報からの天気予報コメントの自動生成
村上聡一朗, 田中天, 萩行正嗣, 上垣外英剛, 船越孝太郎, 高村大也, 奥村学
Vol.28, No.4, pp. 1210-1246

■チュートリアル (3 月 14 日)

以下の 4 つのテーマについてチュートリアルを実施しました.

・項目反応理論と自然言語処理
江原 遥 先生(東京学芸大学)
・ゼロから始める転移学習
柴田 知秀 先生(ヤフー株式会社)

・ボケとツッコミの言語学～漫才研究が照らす日常会話のメカニズム
　　岡本 雅史 先生（立命館大学）
・最適輸送と自然言語処理
　　横井 祥 先生（東北大学）

■スポンサーイブニング（3 月 14 日）
スポンサーと参加者との交流を目的として，スポンサーイブニングをオンラインで開催しました．270 名を超える参加があり，スポンサーのオンラインブースの紹介に活用されました．

■懇親会（3 月 16 日）
Gather を使ってオンラインで懇親会を開催し，最大接続数 270 件を超える多くの参加者が集まりました．

■ワークショップ（3 月 18 日）
前大会に引き続きワークショップの募集を行いました．以下の 2 件の応募があり，いずれも多く参加者を集めて開催されました．
・NLPにおける再現性
・日本語における評価用データセットの構築と利用性の向上

◇ 重点的に取り組んだ施策（抜粋）
今大会では，活発な発表・議論・交流のため，以下の施策に重点的に取り組みました．
・ポスター発表・スポンサー展示ブース・懇親会のインフラとして，一貫して Gather を活用し，オンライン会場全体を「見える化」するとともに，参加者間のコミュニケーションの円滑化を図りました．
・ポスター発表セッションへの参加を促進するために，各発表 30 秒のライトニングトーク（録画）の放映を行いました．
・論文読者の理解を促進することを目的として，論文原稿に概要を導入しました．
・大会参加者が一体感を感じ，大会に没入するための鍵は「現地」にあると考え，名産品配送企画など現地の情報の共有を促進する取り組みを実施しました．
・チュートリアル2件，招待講演1件を現地から配信し，現地とオンラインをつないで質疑応答を実施しました．
・チュートリアル講演・招待講演の動画は参加登録者向けに期間限定配信を行いました．

◇各種表彰
例年通り，言語処理学会からの「最優秀賞」「優秀賞」「若手奨励賞」並びに言語資源協会（GSK）と言語処理学会の共同表彰事業としての「言語資源賞」を授与しました．また，前大会に引き続き，「スポンサー賞」「委員特別賞」を表彰しました．

■大会賞（優秀賞・若手奨励賞）
言語処理学会年次大会の規定に基づき，248 名による選考委員会により厳正な審査を行い，以下を選出しました．それぞれの選奨の理由は 2022 年 7 月発行の言語処理学会ニュースレター Vol.29，No.2 をご参照ください．

＊ 最優秀賞（2 件:発表番号順）
G1-4 強化学習における画像キャプションの低識別性問題と Long-Tail 分類手法を用いた対処
本多右京，渡辺太郎（NAIST），松本裕治（理研）

A3-1 ニューラル言語モデルの効率的な学習に向けた代表データ集合の獲得
鈴木潤（グーグル/東北大），全炳河，賀沢秀人（グーグル）

＊ 優秀賞（7 件:発表番号順）

D1-4 状況別感情極性日本語辞書の作成とその活用
高田篤志（東大），狩野芳伸（静大），山﨑俊彦（東大）

A2-5 Transformer を多層にする際の勾配消失問題と解決法について
高瀬翔（東工大），清野舜（理研/東北大），小林颯介（PFN/東北大），
鈴木潤（東北大/理研）

G2-3 IMPARA: パラレルデータにおける修正の影響度に基づいた文法誤り訂正の自動評価法
前田航希，金子正弘，岡崎直観（東工大）

E3-3 論述リビジョンのためのメタ評価基盤
三田雅人（理研），坂口慶祐（Allen Institute for Artificial Intelligence），
萩原正人（Earth Species Project/Octanove Labs），水本智也（フューチャー/理研），
鈴木潤，乾健太郎（東北大/理研）

PT2-7 知識グラフ埋め込みにおける負例サンプリング損失の分析
上垣外英剛（東工大），林克彦（群馬大）

E5-4 機械・人の双方が言語で概念を説明可能な Few-shot 画像分類
西田光甫，西田京介，西岡秀一（NTT）

D7-4 創発言語でも Harris の分節原理は成り立つのか？
上田亮，石井太河，宮尾祐介（東大）

＊ 若手奨励賞（12 件:発表番号順）

C1-3 テキストと視覚的に表現された情報の融合理解に基づくインフォグラフィック質問応答
田中涼太（NTT）

F2-5 Pre-trained Transformer による引用文脈を考慮した引用ネットワーク埋め込み
大萩雅也（東大）

E3-5 大学入学共通テスト試行調査における短答式記述答案の完全自動採点
岡知樹（東大）

G3-4 多言語文符号化器の言語表現と意味表現の分離に基づく機械翻訳の品質推定
黒田勇斗（愛媛大）

PH2-7 シフト付き絶対位置埋め込み
清野舜（理研/東北大）

PH2-8 線型部分空間に基づく学習済み単語埋込空間上の集合演算
石橋陽一（NAIST）

A5-1 単語ベクトルの長さは意味の強さを表す
大山百々勢（京大/理研）

G5-2 Holographic Embeddings による CCG 構文解析
山木良輔（立命館大）

PH3-13 主観と客観の感情極性分類のための日本語データセット
宮内裕人（愛媛大）

PT4-3 日本語文法誤り訂正の流暢性評価に向けたデータ作成
木山朔（都立大）

PT4-5 Teacher-Student 学習を利用したラベル誤りを含むデータにおける固有表現認識の性能向上
田川裕輝（富士フイルム）

F8-3 マイクロブログからの消失エンティティの検知
赤崎智（東大）

■言語資源賞

言語資源賞は，論文投稿時に審査希望とした 92 件より GSK の審査員が審査し，今大会では以下の 2 件が選出されました．

E8-1『日本語日常会話コーパス』の設計と特徴
小磯花絵，天谷晴香，石本祐一，居關友里子，臼田泰如，柏野和佳子，川端良子，田中弥生（国語研），伝康晴（千葉大），西川賢哉，渡邊友香（国語研）

E8-4 JGLUE: 日本語言語理解ベンチマーク
栗原健太郎，河原大輔（早大），柴田知秀（ヤフー）

■スポンサー賞

スポンサー5 団体から独自の視点でそれぞれ 1 件の論文を選出していただきました．

＊ LegalForce 賞

A4-2 否定の理解への prompt-based finetuning の効果
田代真生，上垣外英剛，船越孝太郎，奥村学（東工大）

＊ NEC 賞

A4-5 四則演算を用いた Transformer の再帰的構造把握能力の調査
松本悠太（東北大），吉川将司（東北大/理研），Benjamin Heinzerling（理研），乾健太郎（東北大/理研）

＊ サイバーエージェント賞

B3-2 後処理ネットワークを用いた強化学習によるタスク指向型対話システムの最適化
大橋厚元，東中竜一郎（名大）

＊ 富士通賞

C4-3 Transformer モデルのニューロンには局所的に概念についての知識がエンコードされている
有山知希（東北大），Benjamin Heinzerling（理研/東北大），乾健太郎（東北大/理研）

＊ Japan Digital Design 賞

PH4-11 要約の生成過程を考慮した弱教師あり学習による生成型要約のエラー検出
高塚雅人，小林哲則，林良彦（早大）

■委員特別賞

委員特別賞は，「ある特定の観点で光る論文を拾い上げたい」「多様な論文に光を当てたい」「論文の完成度よりも将来性を重視したい」といった理念のもと，優秀賞・若手奨励賞とは異なる観点で優れた論文に与えられる賞です．優秀賞・若手奨励賞を受賞した論文を除外したうえで，賞審査の項目点を基準として，委員特別賞選考委員により 16 件を選出しました．

B1-4 対話での共通基盤構築過程における名付けの分析
齋藤結（電通大），光田航，東中竜一郎（NTT），南泰浩（電通大）

E1-1 拡張固有表現に分類された 31 言語の Wikipedia 知識ベース
関根聡，中山功太，野本昌子（理研），安藤まや（フリー），隅田飛鳥，松田耕史（理研）

D2-5 Vaporetto: 点予測法に基づく高速な日本語トークナイザ
赤部晃一，神田峻介（LegalForce），小田悠介（LegalForce/東北大），森信介（京大）
F2-3 MioGatto による数式グラウンディングデータセットの構築
朝倉卓人，宮尾祐介（東大），相澤彰子（NII）
B3-2 後処理ネットワークを用いた強化学習によるタスク指向型対話システムの最適化
大橋厚元，東中竜一郎（名大）
A4-1 確信度を考慮した言語モデルの関係知識評価
吉川和（東工大/富士通），岡崎直観（東工大）
PT2-4 どれほどの統語的教示が必要十分なのか？
能地宏（LeapMind），大関洋平（東大）
A5-5 Transformer におけるフィードフォワードネットの作用
小林悟郎（東北大），栗林樹生（東北大/Langsmith），横井祥，
乾健太郎（東北大/理研）
E5-5 複数映像の抽象化を要するキャプション生成
高橋力斗，Chenhui Chu，黒橋禎夫（京大）
C6-3 近傍の事例を用いた非自己回帰生成
丹羽彩奈，高瀬翔，岡崎直観（東工大）
E6-4 動画タイトルを用いたサムネイル画像の自動選択手法の提案
嘉田紗世，山野陽祐，新美茜，田森秀明，小海則人（朝日新聞社），
岡崎直観（東工大），乾健太郎（東北大/理研）
PT3-16 単語埋め込みを利用した商品に対するキーワードの予測
山口泰弘，深澤祐援，原島純（クックパッド）
PH4-7 LSTM の無変化性バイアスの実験的分析
石井太河，上田亮，宮尾祐介（東大）
PH4-12 曖昧性を含む翻訳に着目したマルチモーダル機械翻訳データセットの構築方法の検討
Yihang Li，清水周一郎，Chenhui Chu，黒橋禎夫（京大）
PT4-11 JParaCrawl v3.0: 大規模日英対訳コーパス
森下睦，帖佐克己（NTT），鈴木潤（東北大），永田昌明（NTT）
D7-3 分散表現を用いたロマンス語同源語動詞の意味変化の分析
川崎義史，Maëlys Salingre（東大），Marzena Karpinska（University of Massachusetts Amherst），高村大也（産総研），永田亮（甲南大）

◇総括

第 28 回年次大会を盛況に開催することができました．大会準備に際しては，オンラインによる開催形態を中心に，現地会場とオンラインを組み合わせたハイブリッド開催形態も視野に入れ準備を進めました．その中で，開催形態によらず活発な発表と議論，参加者・スポンサー団体の交流を促進することを重視し，「◇重点的に取り組んだ施策（抜粋）（抜粋）」で挙げたような取り組みを行いました．結果としては，2022 年年初の新型コロナウィルスの感染拡大を受け，大会運営関係者と一部のチュートリアル・招待講演登壇者以外のすべての参加者はオンラインで参加する形態での開催となりましたが，過去最多の口頭発表件数が集まるなど，非常に多くの発表・参加者・スポンサーが集まった活発な大会となりました．また，運営委員が現地会場に集まり大会を運営することで，意思決定を円滑に行うことができました．課題としては，今大会ではポスター発表の希望が例年より減少したことがあります．セッションの並列数を増やさずに余裕のあるプログラムとすることが望ましいので，ポスター発表をより魅力的にする必要があります．また，持続可能な年次大会であるために，委員や運営側に負荷がかかり過ぎない運営の仕組みについて引き続き工夫していく必要があると考えています．

5. ニュースレターの発行

2022 年にはニュースレターVol.29 No. 1～No. 3 を発行し，学会運営，大会案内，大会優秀賞，論文賞，言語処理技術セミナー開催などについて会員の皆さまへの情報提供を行いました．

6. 理事会の開催

計 8 回の理事会を開催し，入退会会員の承認，事業計画，予算，論文賞選考，年次大会の方針，年次大会優秀賞，ニュースレター発行，関連学会等への協賛等について審議し決定しました．また，言語処理技術セミナーの開催や学会運営についても議論しました．

理事会開催:
第 147 回 (2022 年 1 月 25 日，オンライン)
第 148 回 (2022 年 3 月 11 日，オンライン)
第 149 回 (2022 年 3 月 14 日，オンライン)
第 150 回 (2022 年 5 月 13 日，オンライン)
第 151 回 (2022 年 7 月 8 日，AP 東京丸の内)
第 152 回 (2022 年 9 月 2 日，オンライン)
第 153 回 (2022 年 10 月 26 日，書面決議)
第 154 回 (2022 年 11 月 25 日，AP 東京丸の内)

7. 編集委員会

◇編集委員会の会議

2022 年は，オンライン編集委員会を 2 回開催したほか，随時，メール審議の形式で編集委員会を開催し，採否決定の一層の迅速化に努めました．

編集委員会開催:
第 106 回(2022 年 3 月 30 日，遠隔会議(Zoom))
第 107 回(2022 年 9 月 20 日，遠隔会議(Zoom))

◇英文校正サービス

2022 年掲載論文について，10 件の論文のタイトルと概要の英文校正ならびに 15 件の英文論文の本文の英文校正を実施しました．

◇2022 年度論文賞の選考

2022 年度論文賞は，2022 年に出版された自然言語処理 29 巻 1 号から 4 号に掲載された論文 39 編より，編集委員会が賞に相応しい論文 4 編程度を推薦することを目標として，実施しました．選考は以下の手続きで実施し，浅原正幸副編集長を選考委員長として，一次投票は編集委員 37 名が，二次投票は編集委員 12 名が，それぞれ選考委員会を編成して審査を行いました．

（最優秀論文賞）

最優秀論文賞1件につきましては年次大会の招待論文セッションで発表いたします．

(論文賞) ※掲載順

著者名: 佐藤 志貴，赤間 怜奈，大内 啓樹，鈴木 潤，乾 健太郎
論文タイトル: 負例を厳選した対話応答選択による対話応答生成システムの評価
発行巻号頁:Vol.29 No.1，pp.53-83

著者名: 高山 隼矢，梶原 智之，荒瀬 由紀
論文タイトル: 対話における間接的応答と直接的応答からなる言い換えコーパスの構築と分析
発行巻号頁:Vol.29 No.1，pp.84-111

著者名：山田 康輔，笹野 遼平，武田 浩一
論文タイトル：マスクされた単語埋め込みと 2 段階クラスタリングを用いた動詞の意味フレーム推定
発行巻号頁：Vol.29 No.2, pp.395-415

著者名：西村 太一，迫田 航次郎，牛久 敦，橋本 敦史，奥田 奈津子，小野 富三人，亀甲博貴，森 信介
論文タイトル：BioVL2 データセット：生化学分野における一人称視点の実験映像への言語アノテーション
発行巻号頁：Vol.29 No.4, pp.1106-1137

◇論文掲載数および投稿数
2022 年は，通常号 4 号を出版し，総計 39 編の論文を刊行しました．「自然言語処理」への 2022 年 の通常論文投稿数は，昨年と同水準の 56 編でした．

8. 助成，協賛，後援

以下の会議への助成，協賛，後援を行いました．

(1) 第 13 回産業日本語研究会・シンポジウム（後援）
オンライン 2022 年 2 月 22 日
(2) 第 25 回 画像の認識理解シンポジウム（MIRU2022）（協賛）
姫路市文化コンベンションセンターアクリエひめじ 2022 年 7 月 25 日～28 日
(3) 第 31 回 JTF 翻訳祭 2022（後援）
オンライン 2022 年 10 月 4 日～18 日
(4) 人工知能学会 合同研究会 2022（協賛）
慶應義塾大学矢上キャンパス 2022 年 11 月 22 日～23 日
(5) 第 21 回ロボット聴覚システム HARK 講習会（協賛）
慶應義塾大学矢上キャンパス 2022 年 11 月 23 日
(6) IDR ユーザフォーラム 2022（後援）
オンライン 2022 年 12 月 6 日

9. その他

産業界向けのイベントとして，昨年に引き続き，言語処理技術セミナーを開催しました． 2022 年 10 月 28 日にオンラインにて開催し，林 孝紀先生（株式会社 Preferred Networks），菅原 朔先生（国立情報学研究所），梅澤 慶介先生（メルカリ）にご講演いただきました．言語処理学会会員および学生（非会員含む）は無料として開催し，515 名の方々にご参加いただきました．

若手研究者の積極的な活動を促すことを目的に，COLING2022 に論文が採択された学生会員に参加旅費を支援する事業を企画しました．今回は隣国（韓国）での開催であったためか会員からの支援希望の申請はなく，支援は実施しませんでした．

一般社団法人言語処理学会　正味財産増減計算書

2022年 1月 1日から2022年12月31日まで

（単位：円）

科　　目	予算額	決算額	差異	備考（予算書より）
1．経常増減の部				
(1) 経常収益				
受取会費	[12,196,400]	[11,490,000]	[706,400]	
正会員受取会費	(8,272,400)	(8,280,000)	(-7,600)	
正会員当年度	8,144,400	8,104,000	40,400	@8,000円×1013名
正会員過年度	48,000	112,000	-64,000	@8,000円×14名
正会員(シニア)当年度	80,000	64,000	16,000	@4,000円×16名
正会員(シニア)過年度	0	0	0	@4,000円×0名
学生会員受取会費	(2,024,000)	(1,860,000)	(164,000)	
学生会員当年度	2,012,000	1,840,000	172,000	@4,000円×460名
学生会員過年度	12,000	20,000	-8,000	@4,000円×5名
賛助会員受取会費	(1,900,000)	(1,350,000)	(550,000)	
賛助会員当年度	1,900,000	1,350,000	550,000	1口50,000円×27口
賛助会員過年度	0	0	0	
特殊購読会員受取会費	(0)	(0)	(0)	
事業収益	[24,765,200]	[25,349,000]	[-583,800]	
学術研究事業(年次大会)	(21,485,200)	(21,314,000)	(171,200)	
年次大会参加費	9,693,000	9,879,000	-186,000	
年次大会懇親会費	1,177,200	135,000	1,042,200	
年次大会協賛・広告	10,065,000	11,000,000	-935,000	
年次大会助成・補助	550,000	300,000	250,000	
普及啓発事業(HP・刊行物等)	(3,280,000)	(4,035,000)	(-755,000)	
論文誌広告料	0	0	0	
掲載料	3,100,000	3,825,000	-725,000	決算額は主に28巻4号～29巻3号分
雑誌頒布収益	0	0	0	
産業界向けイベント参加費	180,000	210,000	-30,000	
受取補助金等	[0]	[0]	[0]	
雑収益	[118,640]	[123,479]	[-4,839]	
受取利息	267	260	7	
雑収益	118,373	123,219	-4,846	著作権使用料、言語処理学辞典印税
経常収益計	37,080,240	36,962,479	117,761	
(2) 経常費用				
事業費	[37,378,266]	[30,942,596]	[6,435,670]	
年次大会開催費	(27,378,266)	(23,047,329)	(4,330,937)	
年次大会運営サポート費	15,164,655	14,515,485	649,170	
受付代行費	2,431,675	2,378,743	52,932	
資料作成費（印刷費）	120,000	178,332	-58,332	
コンファレンスバック代	0	0	0	
プログラム委員会費	571,436	682,468	-111,032	STARTシステム利用料、ウェブ作業費、サイトモダン化
年次大会会場費	5,296,780	3,894,960	1,401,820	
年次大会人件費	0	0	0	
年次大会講師謝金等	300,000	368,770	-68,770	
論文賞招待旅費	100,000	0	100,000	
代議員会等会議費	0	0	0	
表彰関係費	500,000	488,090	11,910	
年次大会懇親会費	2,343,720	324,000	2,019,720	懇親会名産品配送費
実施委員会費	460,000	7,500	452,500	現地視察旅費，実行委員会雑費
託児委託費	0	0	0	
年次大会雑費	90,000	208,981	-118,981	講師謝礼ほか
普及啓発事業	(10,000,000)	(7,895,267)	(2,104,733)	
論文誌印刷費	0	0	0	
論文誌通信運搬費	0	0	0	
論文誌編集費	3,600,000	4,364,800	-764,800	
論文誌電子化費用	300,000	286,000	14,000	
編集委員会費	450,000	413,604	36,396	査読・執筆謝礼
編集事務局費	1,200,000	1,241,982	-41,982	編集事務局給与
特殊購読・雑誌頒布経費	0	0	0	
論文誌活性化支援	500,000	609,467	-109,467	英文校正等の国際化支援
表彰関係費	250,000	209,300	40,700	論文誌の優秀賞の賞金、賞状等
若手研究者等の支援	0	0	0	若手研究者の研究会等の支援
国際会議開催費	0	0	0	
国際会議参加支援費	2,700,000	0	2,700,000	COLING2016寄付金の活用(2022は希望者無し)
産業界向けイベント開催費	1,000,000	770,114	229,886	言語処理セミナー
普及啓発事業雑費	0	0	0	IMT分担金等、弁護士相談料
管理費	[4,086,576]	[4,752,320]	[-665,744]	
法人設立費用	0	0	0	
代議員選挙費用	(0)	(0)	(0)	2年ごと(奇数年)　2022年は無し
業務委託費	(3,042,500)	(3,042,158)	(342)	
学会事務委託費	2,530,000	2,530,000	0	中西印刷(株)委託費
総務事務局費	0	0	0	総務事務局委託費(学会事務委託に編入)
税理士報酬	396,000	410,850	-14,850	
社労士報酬	16,500	16,500	0	2020から税理士報酬より分離
司法書士報酬	100,000	84,808	15,192	理事変更登記，約10万円，2年ごと（偶数年）
会費集金費	(633,482)	(654,048)	(-20,566)	
通信運搬費	(47,442)	(219,610)	(-172,168)	Slack，GoogleWorkspace等利用料
租税公課	(244,200)	(476,200)	(-232,000)	法人市民税・住民税・消費税
振込手数料	(42,713)	(22,303)	(20,410)	
HP関連経費	(70,853)	(49,328)	(21,525)	
雑費	(5,386)	(288,673)	(-283,287)	総会資料作成費、労働保険料、理事会会場費・旅費ほか
経常費用計	41,464,842	35,694,916	5,769,926	
当期経常収支差額	-4,384,602	1,267,563	-5,652,165	
2．経常外増減の部			0	
(1) 経常外収益	0	0	0	
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用	0	0	0	
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外収支差額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	-4,384,602	1,267,563	-5,652,165	
一般正味財産期首残高	56,894,538	62,951,417	-6,056,879	
一般正味財産期末残高	52,509,936	64,218,980	-11,709,044	

貸借対照表

2022年12月31日現在

一般社団法人　言語処理学会

一般会計

科　　目	当年度
Ⅰ　資産の部	
1．流動資産	
現金預金	67,471,941
前払金	4,589,389
仮払金	52,800
流動資産合計	72,114,130
資産合計	72,114,130
Ⅱ　負債の部	
1．流動負債	
未払金	1,657,150
前受金	0
前受会費	6,238,000
流動負債合計	7,895,150
負債合計	7,895,150
Ⅲ　正味財産の部	
1．指定正味財産	
指定正味財産合計	0
2．一般正味財産	64,218,980
正味財産合計	64,218,980
負債及び正味財産合計	72,114,130

財産目録

2022年12月31日現在

一般社団法人　言語処理学会

一般会計　　（単位：円）

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金　額
(流動資産)				
	現金	手元保管	運転資金として	134,460
	預金	銀行預金		67,337,481
		ゆうちょ振替口座		36,925,191
		みずほ銀行		22,875,258
		ゆうちょ総合口座		7,537,032
	前払金		次年度大会開催費	4,589,389
	仮払金		クレジット決済システム利用料(無料化により返金予定)	52,800
流動資産合計				72,114,130
固定資産合計				0
資産合計				72,114,130
(流動負債)				
	未払金		事務費、論文誌編集費	1,657,150
	前受会費			6,238,000
	前受正会員			4,604,000
	前受学生会員			628,000
	前受賛助会費			950,000
	前受正会員(シニア)会費			56,000
流動負債合計				7,895,150
固定負債合計				0
負債合計				7,895,150
正味財産				64,218,980

附属明細書

貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書として記載すべき事項はありません。

法 人 名：一般社団法人 言語処理学会

財務諸表に対する注記

1. 継続組織の前提に関する注記
継続組織の前提に重要な疑義を抱かせる事象又は状況はない。

2. 重要な会計方針
「公益法人会計基準」(平成20年4月11日 平成21年10月16日 令和2年5月15日改正 内閣府公益認定等委員会)を適用している。
(1)消費税等の会計処理
消費税の会計処理は税込方式によっている。

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高
基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産	0	0	0	0
特定資産	0	0	0	0
合 計	0	0	0	0

4. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高
債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	債権金額	貸倒引当金の当期末残高	債権の当期末残高
未収金	0	0	0
合計	0	0	0

一般社団法人言語処理学会　正味財産増減計算書

2022年 1月 1日から2022年12月31日まで

（単位:円）

科　　目	決算額	備考（予算書より）
1．経常増減の部		
(1) 経常収益		
受取会費	[11,490,000]	
正会員受取会費	(8,280,000)	
正会員当年度	8,104,000	@8,000円×1013名
正会員過年度	112,000	@8,000円×14名
正会員(シニア)当年度	64,000	@4,000円×16名
正会員(シニア)過年度	0	@4,000円×0名
学生会員受取会費	(1,860,000)	
学生会員当年度	1,840,000	@4,000円×460名
学生会員過年度	20,000	@4,000円×5名
賛助会員受取会費	(1,350,000)	
賛助会員当年度	1,350,000	1口50,000円×27口
賛助会員過年度	0	
特殊購読会員受取会費	(0)	
事業収益	[25,349,000]	
学術研究事業(年次大会)	(21,314,000)	
年次大会参加費	9,879,000	
年次大会懇親会費	135,000	
年次大会協賛・広告	11,000,000	
年次大会助成・補助	300,000	
普及啓発事業(HP・刊行物等)	(4,035,000)	
論文誌広告料	0	
掲載料	3,825,000	決算額は主に28巻4号～29巻3号分
雑誌頒布収益	0	
産業界向けイベント参加費	210,000	
受取補助金等	[0]	
雑収益	[123,479]	
受取利息	260	
雑収益	123,219	著作権使用料、言語処理学辞典印税
経常収益計	36,962,479	
(2) 経常費用		
事業費	[30,942,596]	
年次大会開催費	(23,047,329)	
年次大会運営サポート費	14,515,485	
受付代行費	2,378,743	
資料作成費（印刷費）	178,332	
コンファレンスバック代	0	
プログラム委員会費	682,468	STARTシステム利用料、ウェブ作業費、サイトモダン化
年次大会会場費	3,894,960	
年次大会人件費	0	
年次大会講師謝金等	368,770	
論文賞招待旅費	0	
代議員会等会議費	0	
表彰関係費	488,090	
年次大会懇親会費	324,000	懇親会名産品配送費
実施委員会費	7,500	現地視察旅費，実行委員会雑費
託児委託費	0	
年次大会雑費	208,981	講師謝礼ほか
普及啓発事業	(7,895,267)	
論文誌印刷費	0	
論文誌通信運搬費	0	
論文誌編集費	4,364,800	
論文誌電子化費用	286,000	
編集委員会費	413,604	査読・執筆謝礼
編集事務局費	1,241,982	編集事務局給与
特殊購読・雑誌頒布経費	0	
論文誌活性化支援	609,467	英文校正等の国際化支援
表彰関係費	209,300	論文誌の優秀賞の賞金、賞状等
若手研究者等の支援	0	若手研究者の研究会等の支援
国際会議開催費	0	
国際会議参加支援費	0	COLING2016寄付金の活用(2022は希望者無し)
産業界向けイベント開催費	770,114	言語処理セミナー
普及啓発事業雑費	0	IMT分担金等、弁護士相談料

管理費	[4,752,320]	
法人設立費用	0	
代議員選挙費用	(0)	2年ごと(奇数年)　2022年は無し
業務委託費	(3,042,158)	
学会事務委託費	2,530,000	中西印刷(株)委託費
総務事務局費	0	総務事務局委託費(学会事務委託に編入)
税理士報酬	410,850	
社労士報酬	16,500	2020から税理士報酬より分離
司法書士報酬	84,808	理事変更登記,約10万円,2年ごと（偶数年）
会費集金費	(654,048)	
通信運搬費	(219,610)	Slack, GoogleWorkspace等利用料
租税公課	(476,200)	法人市民税・住民税・消費税
振込手数料	(22,303)	
HP関連経費	(49,328)	
雑費	(288,673)	総会資料作成費、労働保険料、理事会会場費・旅費ほか
経常費用計	35,694,916	
当期経常収支差額	1,267,563	
2．経常外増減の部		
(1) 経常外収益	0	
経常外収益計	0	
(2) 経常外費用	0	
経常外費用計	0	
当期経常外収支差額	0	
当期一般正味財産増減額	1,267,563	
一般正味財産期首残高	62,951,417	
一般正味財産期末残高	64,218,980	

●上記の通り報告いたします。

一般社団法人言語処理学会財務理事　富士　秀　印

一般社団法人言語処理学会財務理事　藤田　早苗　印

●監査の結果、上記の結果に相違ありません。

一般社団法人言語処理学会　監　事　落谷　亮　印

一般社団法人言語処理学会　監　事　山下　達雄　印

2023年　2月　6日

監査報告書

2023年 2月 6日

一般社団法人　言語処理学会

会 長　乾 健太郎　殿

一般社団法人　言語処理学会

監　事　落谷　亮　印

監　事　山下 達雄　印

私たちは2022年1月1日から2022年12月31日までの2022年度における一般社団法人言語処理学会の会計および業務の監査を行い、その結果を報告します。

1.　監査の方法の概要

（1）会計監査については、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて計算書類の正確性を検討した。

（2）業務監査については、理事会への出席、理事からの報告の聴取、関係書類の閲覧などを行い、業務執行の妥当性を検討した。

2.　監査の結果

（1）正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録は会計帳簿の記載金額と一致、法人の財政状況を正しくしめしているものと認めます。

（2）事業報告の内容は、事実に従い、法人の状況を正しく示していると認めます。

以上

2023年度事業計画

1. 運営・活動方針

論文誌「自然言語処理」の発行，年次大会・言語処理技術セミナーの開催など，当会の目的に沿った運営・活動を進めます．また，学会活動を支えるITインフラの整理・拡充を始めとする学会運営体制の活性化・合理化に努めるほか，2024年4月に迎える学会30周年の記念事業についても準備を進めます．

2. 会誌の発行

・第30巻第1号(2023年3月中旬発行予定，通巻135号)
・第30巻第2号(2023年6月中旬発行予定，通巻136号)
・第30巻第3号(2023年9月中旬発行予定，通巻137号)
・第30巻第4号(2023年12月中旬発行予定，通巻138号)

第28巻第1号からJ-STAGE上のオンライン出版に移行しました．また，2018年1月より同期式査読に移行し，すべての通常号の編集を予め設定したスケジュールに従って行っています．これにより「○月○日までに投稿すれば△月△日までに必ず採否が決まる」というように日程が保証されています．編集スケジュールは学会ウェブページに掲載しています．

3. 第29回年次大会の開催

2023年3月13日（月）～3月17日（金）に第29回年次大会を初の本格的なハイブリッド形式で沖縄コンベンションセンターにて開催します．実行委員会・プログラム委員会の各種業務の効率化のために業務フロー・ツール類の近代化とリファクタリングを強力に推進し，コスト削減と同時に，業務のアウトソース化の実現による委員の負担軽減を進めています．

4. ニュースレターの発行

原則として，前年と同様の回数と内容で発行予定です．学会のメーリングリストを通じて配布します．これらは，学会のホームページにバックナンバーとして公開します．

5. 会議

◇社員総会

2023年3月の年次大会に併せて，2023年度社員総会を開催します．予算・決算，学会全体の活動の活性化に向けた施策，関連する研究分野との交流の促進などについて審議，承認します．

◇理事会

昨年度同様に6回程度開催します．論文等の電子的公開，年次大会の開催，他学会との連携などについて審議します．

◇編集委員会

編集委員会は，メールによる審議をベースとし，これまで通りの効率的な運営に努めます．会誌をより活性化し，会員にとってさらに魅力的なものとするために，論文の投稿促進施策や，学会記事の企画などを継続的に検討します．

6. 産業界向けイベント

自然言語処理技術の産業応用を促進するため，2022年度に引き続き，産業界向けのセミナーを開催します．

7. 30周年記念事業

30周年記念事業として，20周年事業で実施されたイベント（記念シンポジウム，記念招待講演，記念論文賞）を同様に2024年度に実施すべく準備を進めていきます．また，新しいイベントとして，賞

の新設（後述），留学支援制度の設立，分野交流ハッカソン，分野間交流言語処理技術セミナーの実施を検討しています．このうちいくつかのイベントは，2023年度に前倒して実施することも検討しています．

◇表彰制度

言語処理分野で功績があった方を顕彰するフェロー制度を，30周年記念事業の一環として新設します．フェロー選定委員会を設け受賞者を決定します．

8. その他

現在の学会ホームページのモダナイゼーションについて検討し，一部の箇所から着手します．

一般社団法人言語処理学会　予算書

2023年1月1日から2023年12月31日まで（2022決算予測は2022年11月25日時点の予測）

（単位:円）

科　　目	2023予算額	2022予算額	2022決算予測	備考
1．経常増減の部				
(1) 経常収益				
受取会費	[11,538,000]	[12,196,400]	[11,538,000]	
正会員受取会費	(8,316,000)	(8,272,400)	(8,316,000)	
正会員当年度	8,140,000	8,144,400	8,140,000	@8,000円×988名(一部入金含む)
正会員過年度	112,000	48,000	112,000	@8,000円×14名
正会員(シニア)当年度	64,000	80,000	64,000	@4,000円×16名
正会員(シニア)過年度	0	0	0	@4,000円×0名
学生会員受取会費	(1,872,000)	(2,024,000)	(1,872,000)	
学生会員当年度	1,852,000	2,012,000	1,852,000	@4,000円×450名
学生会員過年度	20,000	12,000	20,000	@4,000円×5名
賛助会員受取会費	(1,350,000)	(1,900,000)	(1,350,000)	
賛助会員当年度	1,350,000	1,900,000	1,350,000	1口50,000円×27口
賛助会員過年度	0	0	0	
事業収益	[40,719,000]	[24,765,200]	[25,299,000]	
学術研究事業(年次大会)	(36,854,000)	(21,485,200)	(21,314,000)	
年次大会参加費	15,554,000	9,693,000	9,879,000	
年次大会懇親会費	3,000,000	1,177,200	135,000	
年次大会協賛・広告	14,300,000	10,065,000	11,000,000	
年次大会助成・補助	4,000,000	550,000	300,000	
普及啓発事業(HP・刊行物等)	(3,865,000)	(3,280,000)	(3,985,000)	
論文誌広告料	0	0	0	
掲載料	3,685,000	3,100,000	3,685,000	
産業界向けイベント参加費	180,000	180,000	300,000	
受取補助金等	[0]	[0]	[0]	
雑収益	[113,469]	[118,640]	[113,469]	
受取利息	260	267	260	
雑収益	113,209	118,373	113,209	
経常収益計	52,370,469	37,080,240	36,950,469	
(2) 経常費用				
事業費	[58,536,395]	[37,378,266]	[31,059,760]	
年次大会開催費	(46,818,978)	(27,378,266)	(22,849,329)	
年次大会運営サポート費	18,088,533	15,164,655	14,515,485	
受付代行費	2,393,855	2,431,675	2,378,743	
資料作成費（印刷費）	184,800	120,000	178,332	
コンファレンスバック代	0	0	0	
貸切バス・路線バス増発費	2,325,400			
プログラム委員会費	1,076,800	571,436	484,468	
年次大会会場費	9,768,000	5,296,780	3,894,960	
年次大会人件費	1,500,000	0	0	
年次大会講師謝金等	1,386,000	300,000	368,770	
論文賞招待旅費	528,000	100,000	0	
代議員会等会議費	0	0	0	
表彰関係費	825,000	500,000	488,090	
年次大会懇親会費	4,000,000	2,343,720	324,000	
実行委員会費	2,662,050	460,000	7,500	
託児委託費	165,000	0	0	
年次大会雑費	1,915,540	90,000	208,981	
普及啓発事業	(11,717,417)	(10,000,000)	(8,210,431)	
論文誌編集費	4,495,700	3,600,000	4,495,700	
論文誌電子化費用	405,900	300,000	405,900	
編集委員会費	599,952	450,000	459,952	査読･執筆謝礼･旅費
編集事務局費	1,354,834	1,200,000	1,231,667	
論文誌活性化支援	651,731	500,000	651,731	英文校正等の国際化支援
表彰関係費	209,300	250,000	209,300	論文誌の優秀賞の賞金、賞状等
若手研究者等の支援	0	0	0	若手研究者の研究会等の支援
国際会議開催費	0	0	0	
国際会議参加支援費	0	2,700,000	0	COLING2016寄付金の活用
産業界向けイベント開催費	1,000,000	1,000,000	756,181	
普及啓発事業雑費	0	0	0	IMT分担金等、弁護士相談料
記念事業費用	3,000,000			30周年記念行事関連
管理費	[11,571,300]	[4,086,576]	[4,608,190]	
代議員選挙費用	(200,000)	(0)	(0)	2年ごと(奇数年)　、2023予算では計上
業務委託費	(3,557,350)	(3,042,500)	(3,042,158)	
学会事務委託費	2,530,000	2,530,000	2,530,000	中西印刷(株)委託費
総務事務局費	600,000	0	0	学会秘書給与
税理士報酬	410,850	396,000	410,850	
社労士報酬	16,500	16,500	16,500	2020から税理士報酬より分離
司法書士報酬	0	100,000	84,808	理事変更登記,約10万円,2年ごと（偶数年）、2023予算では計上しない
会費集金費	(697,427)	(633,482)	(697,427)	
通信運搬費	(1,060,000)	(47,442)	(149,576)	Google Workspace、GCP、Slack等
租税公課	(476,200)	(244,200)	(476,200)	法人市民税・住民税・消費税
振込手数料	(30,323)	(42,713)	(30,323)	
HP関連経費	(50,000)	(70,853)	(49,328)	
HP改修費用	(1,500,000)			
理事会旅費	(2,000,000)			
雑費	(2,000,000)	(5,386)	(163,178)	総会資料作成費、労働保険料、その他雑費
経常費用計	70,107,695	41,464,842	35,667,950	
当期経常収支差額	-17,737,226	-4,384,602	1,282,519	
2．経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外収支差額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	-17,737,226	-4,384,602	1,282,519	
一般正味財産期首残高	64,233,936	56,894,538	62,951,417	
一般正味財産期末残高	46,496,710	52,509,936	64,233,936	

2023 年度代議員構成

2020－2023 年度代議員		2022－2025 年度代議員	
飯田 龍	情報通信研究機構	今村 賢治	情報通信研究機構
今一 修	日立製作所	内田 ゆず	北海学園大学
北岡 教英	豊橋技術科学大学	小木曽 智信	国立国語研究所
清田 陽司	LIFULL	梶原 智之	愛媛大学
古宮 嘉那子	東京農工大学	窪田 悠介	国立国語研究所
高瀬 翔	LINE	阪本 浩太郎	BESNA 研究所
竹内 和広	大阪電気通信大学	笹野 遼平	名古屋大学
田中 貴秋	NTT	佐藤 敏紀	LINE
寺岡 丈博	拓殖大学	鈴木 良弥	山梨大学
難波 英嗣	中央大学	建石 由佳	科学技術振興機構
能地 宏	LeapMind	谷口 友紀	富士フイルム
森田 一	富士通	平尾 努	NTT
山崎 智弘	東芝	松本 和幸	徳島大学
山田 一郎	NHK	三輪 誠	豊田工業大学
吉野 幸一郎	理化学研究所	谷津 元樹	青山学院大学
計15名		計15名	